

教材・題材

新しい時代を生きる児童のために

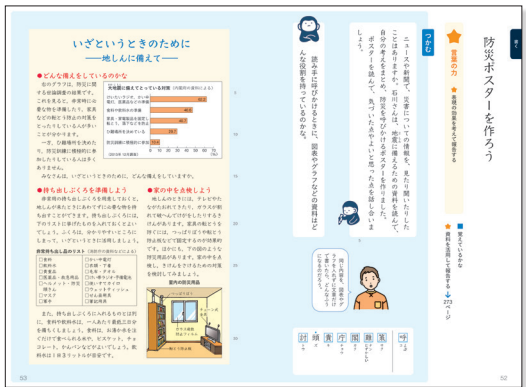
変化の激しい現代社会をたくましく生きるには、他者と共生するとともに、直面する課題を主体的に解決する力が必要です。東京書籍が選り抜いた

多様な教材は、未来を拓くための創造的な知性や感性を育みます。

1 現代社会の課題に向き合う

- 全学年・全領域を通じて、児童が将来にわたって向き合うべき諸課題を扱う教材・題材を採用しました。

防災・安全



防災ポスターを作ろう (六年P52)

平和と共生



パラリンピックが目指すもの (三下P8)

情報化社会



インターネットの投稿を読み比べよう (六年P78)

科学技術の発展



「弱いロボット」だからできること (五年P214)



現代的な教育課題への対応については、別紙「検討の観点と内容の特色」も併せてご覧ください。

2 感性に訴える文学作品を味わう

- 心に響く文学作品を厳選。さまざまな人の生き方や他者への思いやり、生命の尊厳などに触れ、感性に強く訴える作品を味わうことで、児童の心を豊かに育みます。



りっちゃんは、病気になったお母さんのために、おいしいサラダを作りました。

サラダでげんき (一下P5)



3 日本語の豊かさに触れる

- 伝統的な言語文化に親しむ教材を随所に提示。日本語の美しさや表現の豊かさに触れることで、私たちが受け継いできた言語文化を大切に、発展を願う態度を養います。



ヤモの住むバグマンは、自然の恵みいっぱいの「世界一美しいぼくの村」。そのバグマンにも、戦争の影が忍び寄ってきます。世界一美しいぼくの村 (四下P110)



村一番のもぐり漁師だった父が生きた海。母の悲しみを背負いながら、太一もまたその海に生きようとして。海のいのち (六年P112)



きせつの足音 (三下P72)



きせつの足音 (三上P110)



俳句に親しむ (三下P74)

各学年に設けた「伝えたい言葉」では、私たちが受け継いできた言語文化を取り上げています。